

令和5年度 国語科

教科	国語	科目	古典B	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高等学校 改訂版 標準古典B (第一学習社)						
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常用国語便覧 巻頭増補版 (浜島書店) ・ 読んでみて覚える 重要古文単語315 (三訂版) (桐原書店) ・ 新修 古典文法 二訂版 (京都書房) ・ [新版2訂] みるみる実力アップ古文2 (第一学習社) 						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

古典Bの授業では、これまでに習得した知識を活用して自力で古典を読み、内容の把握ができるようになることを目指します。また、そこで得た知識・理解を基に現代と古典の世界の違いを考え、現代に活かすことのできる思考力を養います。

読み解く力を付けるには予習や宿題・授業の中で、テキストや辞書を活用しながら自分で考えて取り組むことが必須です。また、疑問の解消・弱点の克服ができるよう積極的に授業に臨むことを求めます。特に既習事項に関して分からない時はその場ですぐ確認し、復習することを意識しましょう。

2 学習の到達目標

- ・ 古文と漢文に触れ、その時代に生きた人々の考え方や感じ方を学び、現代を生きる自分自身との共通点・相違点を考えることを通して人間や生き方に対する考えを豊かにする。
- ・ 様々なジャンルの古典を自力で正確に読むことができるようになるために、重要古語・古典文法・古典常識等を身につける。
- ・ 得た知識を活用して、現代語訳・古典の解釈ができるようになる。
- ・ 古典の言葉・表現を通して、日本語についての認識を深め、言語感覚を養う。また、古典の世界に親しみ、日本・中国の文化について理解を深める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:読む能力	c:知識・理解
観 点 の 趣 旨	古典に関心を持ち、能動的に学習に取り組むことを通じて、現代に通じる価値を見つけられるよう努めている。また、言語文化に対する理解を深めようとしている。	テキストや辞書を用いて、授業で習得したことを活用しながら自力で現代語訳をすることができている。また知識や現代語訳を踏まえて、内容を正確に理解できている。	古典文法、古典常識、重要古語等を理解している。理解した知識を使って、文脈に即して自身の力で正確な理解につなげられている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時の言動の観察 ・ 授業ノートの点検 ・ 予習や宿題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時の質問への回答内容 ・ 取り組み (現代語訳、ワークシートなど) の点検 ・ 定期考査の出来具合 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時の質問への回答内容 ・ 小テストの出来具合 ・ 定期考査の出来具合
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめる。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c		
1学期	物語	『大鏡』『延喜の帝』	○	◎	◎	a: 歴史物語に触れ、平安時代の歴史とその描かれ方への興味を深める。 b: 助動詞・重要古語の知識を使いながら、人物関係なども含めて古文を正確に読めるようにする。 c: 敬語の基本知識を定着させ、それを活かして人物関係を正確につかむ。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 定期考査、授業中の発言、ノート
	史伝	『史記』『四面楚歌』	○	◎	◎	a: 描かれた場面に関心を持つ。 b: 書き下し文にすること・描かれた場面の状況を踏まえながら読み進め、内容の理解を深める。 c: 「四面楚歌」という語が生まれた逸話を読み、人間の生き方や運命について考える。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 定期考査、プリント、ノート、授業中の発言
	随筆	『徒然草』『相模守時頼の母は』	○	◎	◎	a: 随筆の冒頭部分を思い出しながら、新しい意味合いにも触れ、理解を深める。 b: 文法事項の理解を現代語訳・読みにつなげる。本文全体を通した作者の考えを読み取る。 c: 既習の文法事項を定着させる。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート c: 定期考査、ワークシート、小テスト
2学期	評論	『無名抄』『深草の里』	○	◎	◎	a: 現代語訳と内容理解を通して、説話の面白さを味わう。 b: 文法事項の理解を現代語訳・内容理解につなげる。 c: 和歌の修辞を理解し、和歌の鑑賞に活かす。	a: 授業や予習・宿題などの取り組み b: 定期考査、授業中の発言、ノート、 c: 敬語小テスト、定期考査、授業中の発言

	日記	『蜻蛉日記』『汨坏の水』	○	◎	◎	a : 描かれた場面に関心を持つ。 b : 助動詞・重要古語の知識を使いながら、話の展開とそれに伴う人物の心情を読み取れるようになる。 c : 既習の文法事項を定着させ、それを活用して内容の理解を深める。蜻蛉日記に関わる人物についての理解を深める。	a : 授業や予習・宿題などの取り組み b : 定期考査、授業中の発言、ノート c : 定期考査、ワークシート、小テスト
	評論	『玉勝間』『兼好法師が詞のあげつらひ』	◎	◎	○	a : 現代と昔の言葉の在り方について理解を深める。 b : 助動詞・助詞などの文法知識を活用して現代語訳をし、内容の理解を深める。 c : 古語に関する知識を得、本文の理解に繋げる。	a : 授業や予習・宿題などの取り組み b : 定期考査、授業中の発言、ノート c : 定期考査、授業中の発言、ノート
	思想	『韓非子』『刻削之道』	○	◎	◎	a : 古代中国における人間観に関心を持つ。 b : 書き下し文にすること・描かれた場面の状況を踏まえながら読み進め、内容の理解を深める。 c : 疑問形、二重否定などの句形を活かし、意味が正確にとれるようにする。説話とそれを通しての主張との関係を明らかにさせる。中国の思想家とその思想についての知識を得る。	a : 授業や予習・宿題などの取り組み b : 定期考査、授業中の発言、ノート c : 定期考査、プリント、ノート
3 学期	漢詩	「鹿柴」 「絶句」	○	◎	◎	a : 句法に注意しながら、書き下し文に直し、音読することを通して、漢文のリズム・表現に親しむ。 b : 正確に現代語訳することを通して、内容をとらえる。 c : 作品の背後にある美意識を理解する。	a : 授業や予習・宿題などの取り組み b : 定期考査、授業中の発言、ノート c : 小テスト、練習プリント

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:読む能力 c:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。